

財団法人 住宅生産振興財団のご案内

わが国は 史上まれにみる経済成長によって世界の経済大国となり 国際社会に重要な地位を占めるにいたりました

しかし 住宅に関する限り 戸数においては 一応の充足を見ておられますものの 質の点 住環境の点においては なお向上・改善の余地が残されており 政府の住宅政策も 量より質へ 重点が指向され 種々施策が講じられようとしております

住宅生産振興財団は そのような政府の施策に協力し よりよい住宅の普及と よりよい住空間の育成のために 各種事業を企画し 推進することを目的として設立され 昭和54年7月19日 財団法人として建設大臣により許可されました

事業

- (1) 戸建て住宅および連続建て住宅などの総合展示会の企画と運営
- (2) 住宅需要者を対象として、戸建ておよび連続建て住宅などの構造および性能に関する知識の普及啓蒙のために、(イ)住宅相談所を常設し、(ロ)住宅カタログセンターを設置する。
- (3) 住宅供給事業の経営に関する調査・研究および指導。
- (4) 住宅に関する需要実態の調査、住宅および生活空間の新しい生産方式の調査研究のために、(イ)住宅展示場に関する需要者の意識調査、(ロ)住宅資金の調達および返済方法の調査、(ハ)団地整備手法の研究・調査などを行う。
- (5) 地方公共団体その他関係機関の住宅供給施策に対する協力。各種催し、会合に参加し、協力する。
- (6) その他、前条の目的を達成するために必要な事業。

役員

会長	浅村 廉	山口 昭	(林野庁 林産課長)
理事長	田鍋 健	北川 博	(宅地開発公団理事)
副理事長	釜田 英二	北畠 照	(住宅金融公庫理事)
専務理事	(未定)	救仁郷 齋	(日本住宅公団理事)
常務理事	小浜 久八	市浦 健	(財団法人 住宅部品開発センター 理事長)
理事	西原 恭三	稗田 治	(財団法人 日本建築センター 理事長)
"	石橋 信夫	吉田 信邦	(財団法人 日本不動産研究所 理事長)
"	宇都宮 忠夫	大軒 順三	(日本経済新聞社 取締役社長)
"	山下 茂男	浦上 隆男	(殖産土地相互 取締役社長)
"	三沢 千代治	大橋 喜久三	(ミサワホーム 顧問)
"	岡田 徳太郎	佐古 一	(大成建設 取締役社長)
監事	吉田 敏男	坪井 東	(三井ホーム 取締役社長)
	増田 利蔵	成田 誠五	(東芝住宅産業 取締役社長)
評議員	(昭和54年7月19日現在)	丹羽 正治	(ナショナル住宅建材 取締役会長)
		藤木 竹雄	(大和ハウス工業 取締役会長)
		藤沼 基利	(積水化学工業 取締役社長)
		中田 哲雄	(通産省生活産業局 住宅産業課長)
		高橋 徹	(建設省住宅局 住宅生産課長)
		浜 典夫	(建設省住宅局 民間住宅課長)

(昭和54年7月19日現在)

「量から質へ」の要請に応えて

住宅生産振興財団

会長 浅村 廉



(54・9・26 設立披露パーティー挨拶)

本日は皆様方御多忙のところ御来駕を賜わりまして、まことに有難うございます。

住宅生産振興財団は、建設大臣の許可をいたゞいて去る七月十九日に

発足いたしましたので、不肖私が会長に推されましたので、開宴に先立ち一言御挨拶を申し上げます。

この財団は、会員各社のほか当財団の趣旨に賛同される地場産業が、

全員が総力結集し模範的な街を

住宅生産振興財団

理事長 田 鍋 健



先般、住宅生産振興財団が建設省御当局の肝入りで設立を見たことは、住宅産業界にとって将来の事業展開に重要な意義を持つ点で大変喜ばしく思うとともに、参加者の責任も亦重大であると思う。此の財団が真に国家的使命を果し得る事を念願する

とともに、初代理事長に選ばれてその重責を痛感する次第である。そもそも此の財団は、寄付行為の示す通り、日本の住宅事情の改善に寄与するため、良好な住宅並びに良き住環境を、主要行事である住宅祭を通じて一般に周知啓蒙することに

一団地に戸建てや連続建ての住宅を入り交って建設する場合に、バラバラでなしに一つのまとまりとして、よい市街地の造成、そこまでゆかなくとも少なくとも調和のとれた街区の造成に役立つような建て方をするために、その基準となる全体計画を作成して実施の指導に当たると共に、建設終了後、一定の期間モデル住宅としてこれらを公開展示して、住宅に関する智識の普及や啓蒙に努めることを主たる業務と考えております

が、併せて住宅相談業務や住宅に関する種々の調査研究等を行いながら、「量から質へ」と云われている時代の要請に沿って、些かでも良質の住宅の普及に役立ちたいと念願しているものであります。

何分まだ設立したばかりで、足が地につくまでには色々と勉強を積み重ねて参らなければならぬものと思いますが、どうか皆様方も長い目で御覧いただきまして、末永く御指導御支援を賜りますよう、謹んで御願いを申し上げます。簡単ですが一言御挨拶の言葉と致します。

従って、祭に参加する会員が総力を結集して「模範的な街づくり」を展示公開せねばならない。そのことは、財団の名譽にかけて、かりそめにも欠陥住宅等と言われるものは絶対に出してはならない事は勿論、設計プランから仕様デザインさらには設備機器とも、御客の新しいニーズに適合した自慢の商品を良心的価格で提供すべきのみならず、国の政策に沿ったランドプランニングにより、良好な住宅空間、住環境を外構植樹等とともに提供せねばならない。

また、他方先般の日吉台住宅祭のように、参加社各位が共同して全体の街づくりを行うとともに、お互が良い意味での競争をして切磋琢磨することは、業界全体の発展の為大変喜ばしいことである。

今後全国各地で、財団が主体となって住宅祭が展開されるであらうが、此の大事業を成功させるためには財団当局は未だ極めて非力であるため、参加社の御協力をお願いするとともに、それぞれの地区に於いてその出先機関の絶大なる協力と応援を切にお願い申し上げます。